

令和6年1月19日

## 1月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では各森林組合・林業事業体等が本格的な原木生産を行っているため、生産量は増加する見込みである。各地区共販所への入荷はスギ、ヒノキとも順調。間伐材、小径木も順調な入荷である。製材工場の材の引き取りは順調。昨年12月上旬まではスギ、ヒノキとも強保合で推移していたが、高値推移の疲れから応札価格は下落傾向である。スギ、ヒノキとも全ての品目で2,000円～4,000円/m<sup>3</sup>の値下がりとなっている。

群馬県では降雪が少ないため原木集荷は容易になり、製材工場の原木在庫は回復している。首都圏の製品市場からの受注は相変わらず低調。仕事は出始めているが例年の7割程度。製品の売れ行きが悪いため、在庫は100%の状況。破風板、垂木、根太の荷動きが悪く在庫が多い。土木材の荷動きも一段落した。年末は例年になく低調であり、年明けもスロースタートの状況である。

### 2. 米材

北米大手のWest Fraser社が米国南部の2工場の永久閉鎖、無期限閉鎖を1/9に発表した。原料コストの高さと木材市況の低迷が閉鎖理由。米国の港頭在庫は日本大手米マツ製材の取引量の減少もあり潤沢な状況。一方、カナダでは昨年夏場の山火事警戒による伐採量の減少で港頭在庫が払底したが、現在は伐採順調で在庫を積み上げ中である。米マツIS級並の1月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様（Weyerhaeuser社と中国木材の成約価格が公表されないことになり、価格情報は推測の域を出ない）。11月の米国新設住宅着工数は前月比13.7%増の年率換算156.0万戸となった。産地価格はほぼ横ばい推移である。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/8)は\$400/M、12月頭に比べ5.5%の上昇。

11月原木入荷は105千m<sup>3</sup>と低水準。鹿島への入荷がゼロになったことが要因。12月入荷も同程度の見通しである。1～11月累計では1,600千m<sup>3</sup>、前年同期比22.0%減。出荷も126千m<sup>3</sup>と低調、1～11月累計は1,629千m<sup>3</sup>で前年同期比20.6%減。在庫は前月より減少し143千m<sup>3</sup>、在庫率は0.98ヵ月となった。東京木材埠頭の12月製品入荷は13千m<sup>3</sup>(前月比11.3%減)、出荷は13千m<sup>3</sup>(同4.1%増)、在庫は33千m<sup>3</sup>(同1.7%減)。中国木材の生産減少により

他の国内製材工場への発注が増加し、市況は完全に底打ち反転したが、住宅需要が弱く反発力に力強さはない。フーシ派による紅海航行中の船舶への攻撃で、欧州から極東への船舶がスエズ運河を通らず喜望峰回りとなり、欧州材の入荷ずれ込みの影響が今後注視される。

### 3. 北洋材

シベリア産地では冬山の伐採期に入ったが、生産意欲が上がらず供給が増えない。労働者減、インフレによるコスト増、貨車・コンテナの減少、メインの中国市場向けの不振などが原因である。アカマツ原板の新規オファーを待っているが数量は少ない状況。アカマツ完成品も産地側のオファーが増えず、為替も円高に戻らないことから30×40の良材は90,000円/m<sup>3</sup>を超えてくる見込み。アカマツ野縁製品の引き合いは活発で流通在庫は枯渇しつつある。中国木材の火災の影響で一時期桟木、垂木の引き合いが増えたが、現在は多少落ち着いている。今後能登半島地震の復興需要で野縁、桟木の引き合いが増える可能性もある。国内北洋材製材工場では荷動きが回復しているが、手持ちの原板在庫が減少しており、注文に応えきれない状況。

11月の製品入荷(東京+川崎)は7.8千m<sup>3</sup>で低水準が続いている。出荷は16.0千m<sup>3</sup>と底を打った感があり、堅調な動き。在庫は大きく減少して29.7千m<sup>3</sup>で昨年夏場のピークから半減となった。2023年のロシア製品入荷量は477千m<sup>3</sup>程度(前年比40%減)と予想される。

### 4. 合板

東日本では合板メーカーの原木仕入価格は維持されている。生産調整が続く中、一部メーカーでは超過分の原木を輸出に回すなどして対応。西日本ではメーカーの原木仕入価格の上昇が見られる。製材品市況の停滞感が続き、原木生産が減少傾向にあったこと、特にヒノキは米マツの代替需要が重なったことによる。

10月の国内合板生産量は23.1万m<sup>3</sup>、うち針葉樹合板は22.9万m<sup>3</sup>、出荷量は22.9万m<sup>3</sup>で在庫量は16.3万m<sup>3</sup>となり、うち構造用合板の在庫は13.4万m<sup>3</sup>と前年に比べ高水準な在庫状況が続いている。針葉樹合板は11月前半にかけてメーカーや流通筋で堅調な出荷が見られたが、その後は停滞感が漂った。秋口から価格は弱含みになる中、需要家は当用買いを続け、一段と様子見が強まった。需要家による当用買いは継続しており、今後の価格動向を警戒し慎重な姿勢を崩していない。流通在庫は極めて少ない。住宅需要が振るわず、市中からの値下げ要請は続いている。配送費等の値上げも見込まれ、合板を取り巻くコストの上昇は確実で、これらを踏まえて底値を固める必要がある。

11月の合板輸入量は前月比2.7万m<sup>3</sup>増の久々の20.0万m<sup>3</sup>となった。産地では降雨が続いているため、原木の伐採・搬出が止まっている。1月、2月は休暇が多く、合板工場への原木到着は早くも3月後半になるため、今後原木不足が予想される。

#### 5. 構造用集成材

12月のラミナ入荷量は通常の5~6割程度で少ない。在庫量は通常通りに戻りつつある。第3・四半期契約は欧州の休暇の影響でオファー減であり、今後も入荷量は減少する見込みである。第3・四半期契約価格は€260~280/m<sup>3</sup>程度。12月時点のラミナ入港価格は48,000円/m<sup>3</sup>程度。フィンランドでは減産を見据えているので、今後価格は上昇傾向になるだろう。スエズ運河の使用取り止めが相次いでおり、全体的1~2ヵ月の入港遅れが予想される。輸入集成材の入荷が不安定なため、国内産集成材の受注増加が見込まれる。

#### 6. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材の引合は強い。暖冬の影響で入荷は順調だが、慢性的に不足感が強い。燃料材は解体物件の減少、作業員不足等により発生量は減少。北陸地域では地震により製紙、バイオマス発電とも操業停止や操短になっていたが、徐々に復旧している。大量の災害木(木くず)が発生しており、北陸地域だけでは処理できない状況となっている。品質の問題もあり、燃料材に使用可能かどうか見通しがつかず、今後の課題である。

#### 7. 市売問屋

外材問屋は値上げ傾向にあるが、客は仕事が無いことから値下がるのではとの予想でギャップが生じている。材木店の仕事量が少ないため、外材構造材の梱包買いが本当に少ない。国産材構造材は不足材が無く、価格も上がらない。中国木材の米マツ製品も徐々に不足感が無くなっている模様である。

#### 8. 小売

首都圏のプレカット工場の稼働率は11月をピークに低下し8割程度。住宅物件の減少を非住宅物件がカバーしている。新年になっても需要回復に向けた好材料が少ない。国産材構造材は柱や土台が若干値上がりしたものが、その後価格は動いていない。米マツ製品の代替需要も一服感がある。WW 集成管柱に不足感があるが、実需の弱さから落ち着いた模様。RW 集成平角は米マツ代替需要を取り込んでいるが、12月に値上がりはなかった。内装木質化の流れからか、非木造物件でも壁や天井に無垢材を使用するケースが増えている。

注) 今月から南洋材は廃止

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター  
令和6年1月19日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↗	↗	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
	(国内挽き)		米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オトラ)	アカマツ(KD) 30×40上級	↗
			アカマツ(KD) 24×28積木	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘